

第4回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 令和6年2月14日（水）

10時00分～12時00分

場所 市役所第2庁舎2階ホール

出席者（敬称略・順不同）

○委員 八尾由江委員、大野亮祐委員、中川フェテレウォルク委員、畑道雄委員、
赤井俊子委員、大木玲子委員、中井昌彦委員、杉岡秀紀委員、藤井叙人
委員、小林芳晴委員、荻野祐一委員

※欠席： 藤本理恵委員、荻野博久委員

○丹波市 細見正敏副市長

（事務局）清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、多田総合政策課政策係長
村上総合政策課政策係主査

1 開会

2 副市長あいさつ

3 報告事項

（1）第3期丹波市人口ビジョンの策定について【資料1】

（2）第3期丹波市人口ビジョンの原案について【資料2】

（事務局説明）

委員：第3期人口ビジョンの目標人口は38,000人とし、現在の3分の2程度の人口となり、本来の市の要件である50,000人を大きく下回る事となる。これは避けられない事態であり、ショッキングな数字である。出生数についても、2060年の目標を240人としているが、現状の減少傾向を鑑みると、2040年には150人程度まで減少することとなる。第3期人口ビジョンに関する目標条件は、出生率が1.80、社会増である20代・30代の回復率が65%と、第2期人口ビジョンより目標値を下けているが、最低限でも達成したい目標である。人口減少は静かなる有事であり、住民と危機感を共有する必要がある。特に女性の回復率は重要で大きなハードルでもある。委員の皆様には、特に目標条件について議論いただきたい。

委員：今回の議論に人口減少対策は含まれていないのか。

事務局：今回は人口ビジョンのみが対象で、対策については令和6年度にとりまとめた。

委員：資料2に記載されている解決の兆しは見通しが甘くないか。もっと危機感をもって、人口減少に対する手立てを講じる必要があるのではないか。

- 事務局：12月に開催した総務文教常任委員会でも解決の兆しについて、指摘をいただいておりますが、修正しているが、まだ不十分である。人口減少が静かなる有事であるという認識をもち、再度修正を行いたい。
- 委員：多くの人に現状を知っていただく必要があるが、厳しく記載して、住民のやる気を低下させることは避けた方がよい。豊岡市でも人口減少対策を講じているが、一つの市だけでは限界があり、県や国の補助が必要である。
- 委員：記載にあたってのバランスの重要性と客観的に伝えることの指摘であったと考えている。現在、安芸高田市は議会傍聴が増え、市の政策への関心が高まっている。行政としても、どのように情報を発信していくかなど、仕掛けが重要である。
- 委員：大学運営という視点では、教育環境の整備や地域の活性化が重要と考えているが、授業はオンラインでも実施できるため、学生から選んでもらえるか不安である。また、第3期人口ビジョンの目標条件は妥当である。対策は別途とりまとめるとのことだが、今後の指針について記載があれば、住民にも危機感を伝えることができるのではないか。
- 委員：兵庫県でも4月から県立大学の無償化が開始されるが、国全体で実施しないと過度な競争になる。丹波市では、アントレプレナーシップ教育や高校の魅力化に注力しており、また伝え方について、カードゲームを活用するなどゲームが持つ普遍性や普及性に注目することが重要である。
- 委員：解決の兆しについて、抽象的な表現であり、市として今後どのように対策を講じるか重要である。また、第2期総合戦略の効果があつた取組などを記載してはどうか。
- 委員：政策的な内容は敢えて除外しているところはあるが、総合戦略として取り組む内容を頭出ししても良いかもしれない。
- 委員：子ども達が理解できる内容になっているか。グラフなども見やすいように工夫する必要がある。娘が育児をするなかで、ハッピーバースの取組に非常に感謝していた。そのような「やさしい」取組をしているということは、原案に盛り込んでよいのではないか。
- 委員：新しいアイデアである。第3次総合計画でも子ども版を作成した方が良いのではという意見があつた。人口ビジョンについても、子ども版を検討できないか。
- 事務局：総合計画では、人口ビジョンの内容も含まれており、総合計画の子ども版で網羅するかどうか。又は、総合戦略も含め、単体で子ども版を作成することも含めて検討したい。
- 事務局：丹波市では、子ども版市勢要覧を作成しており、それを基にアレンジして作成できるか検討したい。
- 委員：東日本大震災のときにあつても、赤ちゃんが日々生まれてくることに感謝する「ハッピーバース」という動画が作成されている。ビジュアルの力を活用して伝えることも重要である。
- 委員：人口の推移を見るたびにネガティブな気持ちになる。認定こども園の理事を務めていたが、関係者がこのような資料を確認する機会が少ない。第2期人口ビジョンを確認するなかで、運営法人の経営を見直したこともある。グラフだけでは悲観的になるため、この後の対策が重要である。現場をみると、保育士は住宅や職場環境の影響で都会が人気となっており、丹波市に戻ってくる方が少ない。例えば、男性の育休を推進することが行政として重要な施策であると考えている。
- 委員：情報を誰と共有するか、特に現場に伝わるのが重要である。保育士の対策として、特に給与は重要である。行政が職員を募集する場合に、国家資格が必要な職種であっても会計年度任用職員の採用では担い手がなく、本末転倒である。このあたりは異次元の対策が必要となってくる。
- 委員：第1期から委員を務めているが、目標人口が50,000人から38,000人まで減少している。今は目に見えて、外国人の方が増加している。特に特殊技能の方が増加してお

り、今後も増加する見込みであり、人口ビジョンとしてどのように考えるのか重要である。対策については、優しいデジ田に取り組んでほしい。相互間の対応が可能なシステムを構築し、伴走型の支援を進めてほしい。

委員：外国人を対象とする多文化共生政策は、地域政策でもあるが国策でもあり、目標値とすべきか含めて重要な視点である。武蔵野市では住民投票における外国人の投票権を廃止することを決めるなどの動きもあった。また、やみくもに人口が増えるとコミュニティーの問題もあり、バランスが重要である。

委員：20年前に農村地域における女性の意識調査を実施したが、娘に帰ってきてほしいと思う気持ちは乏しく、住みにくいと感じている声が多かった。女性らしくあるべきとの意識が浸透している。地域の会合においても、男性ばかりが出席しており、長い年月をかけて意識を変えていく必要がある。また、丹波篠山市では中高生が観光ボランティアを担っており、丹波市でも中高生に知ってもらおうという意味で取組を開始してはどうか。

委員：人権やジェンダーに関する指摘であったが、このあたりの政策は豊岡市が進んでいる。また、中高生が現場に出ていくことも重要である。

委員：社会増について、厳しい数字であるが、移充を促す内容を追記した方が良いと感じた。また、県が先日「兵庫のゆたかさ指標」を公表しているが、丹波地域は子育て環境においては上位の数字となっていた。そのことについて、もっと情報発信できればよいと考えている。

委員：福知山市では、自衛隊の駐屯地があり、転入が多い。Iターンの要素も重要な観点であるため、加筆をお願いしたい。

委員：移住相談の窓口の立場から、今後は「縮充」がキーワードとなってくる。ミラインにおいても、時代の変化に追いつけておらず、ひずみが生じている。人口減少対策のなかで、移住は「緩和」であり、その観点で考えると、人口減少を過度に問題視するのではなく、人口構成が重要である。人口減少により社会も変化していくため、悲観的になりすぎる必要はない。また、丹波市では他市と比較すると、選ばれている側面があり、まだアドバンテージがあると考えている。

委員：縮充の観点から、人口減少するなかで人口規模に合った対応を行う必要がある。ネガティブになりすぎることはなく、「正しく恐れる」ことが必要である。また、今後の対策について、豊岡市では飛びぬけて魅力的なまちを掲げている。丹波市においても、結果が出始めており、第3期総合戦略では、ポジティブに取り組めるよう策定を進めてほしい。

委員：崇広藩における教育の歴史を振り返ると、当時他の地域に先駆けて教育機関が発足している。これは住民に危機感が共有されており、熱意と協力体制があった。このようなことから、地域と正しい危機感を共有していくことが重要である。

委員：世代や国籍によって、伝え方が異なってくる。縮充という観点も重要で、人口が減少するという本当の意味を分かっていたいなかった。一人一人が学び続け、うねりになっていくことが重要である。

委員：本日の議論を総括すると、第3期人口ビジョンの策定にあたっては、①悲観と楽観のバランスを考慮すること、②子どもや外国人など伝え方に工夫を凝らすこと、③人口ビジョンに続く対策も今後セットで検討していくこと、の3点が重要であり、また次回の推進委員会で議論していきたい。

4 次回推進委員会開催日程

令和6年度第1回丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日 時：令和6年5～6月予定

場 所：未定

5 閉 会